

平成24年2月6日

報道関係各位

新日本製鐵株式会社

## 第22回 新日鉄音楽賞 受賞者決定のお知らせ

第22回新日鉄音楽賞の受賞者が、以下のとおり決定しましたので、お知らせします。

### 第22回 新日鉄音楽賞

《フレッシュアーティスト賞》 賞状・トロフィー／副賞 300 万円

萩原麻未 はぎわら まみ  
(ピアノ)

【贈賞理由】

2010年のジュネーヴ国際コンクールピアノ部門で、日本人として初優勝した萩原麻未の昨年11月の紀尾井ホールでのデビュー・リサイタルへの高評価が今回の受賞へとつながった。その演奏は、深い洞察力と豊かな音楽性に彩られ、演奏者の作品への思いが聴き手にも強く伝わってきた。この受賞をステップに、さらなる高みを目指して欲しい若手のホープだ。

(選考委員・百瀬喬)

《特別賞》 賞状・トロフィー／副賞 100 万円

室井摩耶子 むろい まやこ  
(ピアノ)

【贈賞理由】

卒寿にして現役。それも並みの90年ではない。今なお楽譜の厳しさに立ち向かい、納得の行くまで考え抜き、瑞々しく音にする。20回を超えるトーク・コンサート「音楽を聴きたいって何なの？」は、音楽をやりたいって何なのと問い続け、しっかりと生きてきた室井摩耶子さんの歩みである。この、厳しく、優しく、豊かな音楽人生。

(選考委員・富永壮彦)

なお、「第22回新日鉄音楽賞 贈呈式・受賞記念コンサート」は、平成24(2012)年7月9日(月)に、紀尾井ホール(東京都千代田区紀尾井町6番5号)で開催する予定です。

## 第22回新日鉄音楽賞 フレッシュアーティスト賞

# 萩原 麻未 はぎわら まみ

(ピアノ)

2010年11月に行われた第65回ジュネーヴ国際コンクール〈ピアノ部門〉において、日本人として初めて優勝。年によって1位を出さないこの伝統あるコンクールでの8年ぶりの優勝は、各方面で大きな話題を集めた。

1986年(昭和61年)12月2日生。広島市出身、5歳よりピアノを始める。国内の数多くのコンクールで入賞を重ね、第27回パルマドーロ国際コンクールにて史上最年少の13歳で第1位に輝く。

広島音楽高等学校を卒業後、文化庁海外新進芸術家派遣員としてフランスに留学。パリ国立高等音楽院に審査員満場一致で合格し、ジャック・ルヴィエ、プリスカ・ブノワ両氏のもとで研鑽を積む。

パリ国立高等音楽院修士課程を首席で卒業し、同年ジュネーヴ国際コンクールで優勝。そのファイナルではパスカル・ロフェ指揮スイス・ロマン管弦楽団と共演した。

2011年、スイスのグシュタード・ニューイヤー・フェスティバル、ジュラ・フェスティバル、フランスのペリグー・ノワール・フェスティバルに招かれ、4月にはパリのユネスコ本部でおこなわれた「東日本大震災復興支援チャリティコンサート」に出演。5月にジュネーヴ国際コンクール入賞者のためのコンサート・ツアーでジュネーヴ、パリ、ミュンヘンで演奏し、その後チュービンゲンでのソロ・リサイタル等、パリを拠点にさらなる研鑽を重ねながら演奏活動を行っている。

国内では、7月に広島交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団と共演、11月には東京・紀尾井ホールにてデビュー・リサイタルを行い、各方面から高い評価を得た。

現在ロームミュージックファンデーションの奨学生として、パリ国立高等音楽院およびパリ地方音楽院室内楽科に在籍し、イタマル・ゴラン、エリック・ル・サージュ両氏に師事。

これまでに高松和、田中美保子、小嶋素子、クラウディオ・ソアレス各氏に師事したほか、アンリ・バルダ、イェルク・デームス、ボリス・ペトルシャンスキー各氏らのマスタークラスも受講。

1996、98年にフェニックス賞、メイプル賞、2001年にイタリア・フィナーレリグレ市より文化交流賞、2011年に広島市民賞、ひろしまフェニックス賞特別賞、ミュージックペンクラブ・新人賞を受賞。2011年度ホテルオークラ音楽賞を受賞している。



(写真=Akira Muto)

## 第22回新日鉄音楽賞 特別賞

# 室井 摩耶子 むろい まやこ

(ピアノ)

1921(大正10)年4月18日生(90歳)。6歳よりピアノを始め、小学4年生から高折宮次氏に師事。41年東京音楽学校(現・東京芸大)を首席で卒業、研究科に進み、クロイツァー教授に師事、43年に修了。1945(昭和20)年1月、日比谷公会堂での日響(現・N響)ソリストとしてデビュー。終戦後、本格的にリサイタル活動を開始。サティやデュカスなど多くの作品を日本初演。

1955(昭和30)年、大ヒット映画『ここに泉あり』に実名ピアニスト役で出演。

1956年、「モーツァルト生誕200年記念祭」に日本代表としてウィーンに派遣される。同年、第1回ドイツ政府給費留学生に推挙され、ベルリン音楽大学に留学。ベルリンを拠点に、ハウザー教授、ロロフ教授、ケンプ教授に師事し研鑽を積む。

1960年、世界最高峰ケンプ教授の推薦でベートーヴェンを4曲並べたリサイタルをベルリンで開催、まれに見る好評でヨーロッパにおける地位の第一歩を築いた。以降、海外13カ国で演奏を重ね、日本国内より国外に於いて名声を高め、64年にはドイツで出版の『世界150人のピアニスト』に選ばれる。

レパートリーは、ケンプとロロフ直伝のベートーヴェンを主軸に、シューベルト、バッハ、ブラームスの解釈には定評がある。

帰国後も日本を代表する名演奏家として活躍。その円熟した演奏は評判高く、80歳を超えピアノコンチェルトも協演。井上道義指揮、02年東京フィル(東京オペラシティ)、06年神奈川フィル(神奈川県立音楽堂)と、満員の聴衆に深い感銘を与え、各方面より絶賛を博す。

95年(74歳)から始めた「音楽を聴きたいって何なの?」と題した「トーク&コンサート・シリーズ」は、既に23回にも及ぶ。さらに子どもから大人まで、多くの人々に感動を贈る“最前線”の演奏活動にも挑戦。その活動は、テレビ・ラジオをはじめ新聞・雑誌でも多数紹介され、その度ごとに大きな反響が広がっている。

NHKでは、06年「芸術劇場」に特集(生涯現役～私のクラシック音楽道)、同年、連続テレビ小説「純情きらり・スペシャル」にて室井摩耶子の「ドキュメント」が全国放映された。07年「ラジオ深夜便」[人生私流]、09年「米寿記念コンサート」は全国ニュースで紹介され、同年「ラジオビタミン」、10年「あさいちばん」、「世の中面白研究所」、総合テレビ「生活ホットモーニング」等々に出演、民放では08年、テレビ東京「主治医が見つかる診療所」に出演、脳の海馬が60歳と評価。同年、日本テレビ「人生が変わる1分間の深イイ話」に、9年にフジTV「どうも☆キニナル」、11年にテレビ朝日「たけしの健康エンタテインメント! みんなの家庭の医学」に2時間番組中1時間にわたって彼女の体を徹底的に分析、大変な反響を呼ぶ。

06～11年にCDを7枚リリース、「レコード芸術」『特選・準特選』や「音楽現代」『推薦盤』と推奨され、今なお健在ぶりを示した。

ピアノと共に80余年。深い醍醐味の音楽は、年齢とともに益々前進を続けている。



(写真=小島由起夫)

# 新日鉄音楽賞

*Nippon Steel Music Award*

新日鉄音楽賞は、1990年(平成2年)新日本製鐵創立20周年と同社が提供してきた「新日鉄コンサート」放送35周年を記念して設けられた音楽賞です。この賞を通して、日本の音楽文化の発展と、将来を期待される音楽家の方々の一層の活躍を支援することを目的としています。

## 【賞の概要】

### フレッシュアーティスト賞〔賞状・トロフィー／副賞300万円〕

将来を期待される優れたアーティストを対象とした賞。

選考方針としては、技術のみにかたよらず、音楽性、将来性を重視し、広い範囲から選出、その年の最優秀者を決定し、賞を贈る。

### 特別賞〔賞状・トロフィー／副賞100万円〕

クラシック音楽をベースにした活動を行っている個人を対象とした賞。演奏家に限定せず、幅広いジャンルのなかから、音楽文化の発展に大きな貢献をはたした方に対して、賞を贈る。

## 【選考委員】

- [委員] 菅沼 準二 (東京芸大名誉教授)  
寺西 基之 (音楽評論家)  
富永 壮彦 (音楽ジャーナリスト)  
百瀬 喬 (音楽評論家)  
池辺 晋一郎 (作曲家)  
中村 絃子 (ピアニスト)  
[顧問] 三善 清達 (音楽評論家)

## 【選考方法】

### フレッシュアーティスト賞

音楽評論・音楽ジャーナリズム分野の委員計4名からなる選考会において選考、決定。

### 特別賞

全委員および顧問からなる選考会において選考、決定。

---

## 新日本製鐵株式会社

新日鉄音楽賞運営事務局／担当:花澤 裕・新庄美佳

(公益財団法人 新日鉄文化財団 受託事業)

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号

電話 03-5276-4500(代表) FAX 03-5276-4527

---

## 【新日鉄音楽賞 歴代受賞者】

- 第1回(1990年度) フレッシュアーティスト賞／諏訪内 晶子(ヴァイオリン)  
特別賞／松本 美和子(ソプラノ)
- 第2回(1991年度) フレッシュアーティスト賞／長谷川 陽子(チェロ)  
特別賞／宮崎 隆男(ステージ・マネージャー)
- 第3回(1992年度) フレッシュアーティスト賞／服部 譲二(ヴァイオリン)  
特別賞／田中 希代子(ピアノ)
- 第4回(1993年度) フレッシュアーティスト賞／田部 京子(ピアノ)  
特別賞／千葉 馨(ホルン)
- 第5回(1994年度) フレッシュアーティスト賞／本名 徹次(指揮)  
特別賞／森島 英子(オペラ・コレペティトール)
- 第6回(1995年度) フレッシュアーティスト賞／菅 英三子(ソプラノ)  
特別賞／三浦 尚之(ミュージック・フロム・ジャパン代表)
- 第7回(1996年度) フレッシュアーティスト賞／川本 嘉子(ヴィオラ)  
特別賞／鶴田 昭弘(ピアノ調律師)
- 第8回(1997年度) フレッシュアーティスト賞／樫本 大進(ヴァイオリン)  
特別賞／小川 昂(音楽史料研究家)
- 第9回(1998年度) フレッシュアーティスト賞／横山 幸雄(ピアノ)  
特別賞／吉井 實行(仙台フィルハーモニー管弦楽団事務局長)
- 第10回(1999年度) フレッシュアーティスト賞／佐藤 美枝子(ソプラノ)  
特別賞／瀧 淳(アート・マネージャー)
- 第11回(2000年度) フレッシュアーティスト賞／木村 大(ギター)  
特別賞／永田 穂(永田音響設計 特別顧問)
- 第12回(2001年度) フレッシュアーティスト賞／高木 綾子(フルート)  
特別賞／伊藤 京子(別府アルゲリッチ音楽祭総合プロデューサー)
- 第13回(2002年度) フレッシュアーティスト賞／小菅 優(ピアノ)  
特別賞／杉 理一(ニューオペラ・プロダクション代表)
- 第14回(2003年度) フレッシュアーティスト賞／天羽 明恵(ソプラノ)  
特別賞／井阪 紘(音楽プロデューサー)
- 第15回(2004年度) フレッシュアーティスト賞／植村 理葉(ヴァイオリン)  
特別賞／栗山 昌良(演出家)
- 第16回(2005年度) フレッシュアーティスト賞／木下 美穂子(ソプラノ)  
特別賞／青木 十良(チェロ)
- 第17回(2006年度) フレッシュアーティスト賞／下野 竜也(指揮者)  
特別賞／村上 輝久(ピアノ調律師)
- 第18回(2007年度) フレッシュアーティスト賞／上原 彩子(ピアノ)  
特別賞／木之下 晃(写真家)
- 第19回(2008年度) フレッシュアーティスト賞／クアルテット・エクセルシオ(弦楽四重奏)  
特別賞／金山茂人(財団法人東京交響楽団理事・最高顧問)
- 第20回(2009年度) フレッシュアーティスト賞／河村 尚子(ピアノ)  
特別賞／青木賢児(財団法人宮崎県立芸術劇場 理事長)
- 第21回(2010年度) フレッシュアーティスト賞／長原 幸太(ヴァイオリン・大阪フィルハーモニー交響楽団  
首席コンサートマスター)  
特別賞／豊田耕兒(ヴァイオリン・社団法人 才能教育研究会芸術監督)